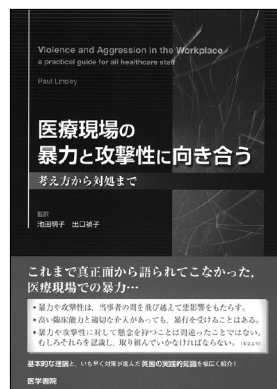


## 『医療現場の暴力と攻撃性に向き合う 考え方から対処まで』

# いますぐ現場で役立つ ヘルスケアスタッフのための 「暴力対策の教科書」

著：Paul Linsley／監訳：池田明子／出口禎子

定価：2,730 円（本体 2,600 円＋税 5%）／発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



医療現場の暴力と攻撃は、被害を受ける対象者が多種で、暴力と攻撃内容も加害者の数だけ存在し、被害はさまざまに深刻である。しかしこの問題は昔からあって新しいことではない。だが、語られてこなかった。なぜかを問うことさえ封印されてきた。

本書は、このテーマについてまず冒頭で警告し、「適切な介入がなされることで暴力と攻撃の多くは予防することも可能であり、被害を最小限にとどめることができる」としている。暴力についての定義を多角的多面的に捉えまとめており、読者が“暴力”の理解を深め整理することのできる内容であり、その技法は圧巻である。ただ本書の依拠する暴力定義が明文化されていないことから、その難しさを改めて知ることができる。

本書の優れた特徴は、暴力と攻撃に対する予防と被害を受けた場合最小限にするためのその内容についてである。内容が具体的であり、かゆいところに手が届くほどに詳細である。

例えば、『個人のリスクアセスメントに焦点を当てる』はそのまま別ファイルにして持ち運べそう。私は大学で学生の臨床実習開始前の実習オリエンテーション時に「患者等からの暴力」についての講義を担当しているが、実習期間中に被害に遭う学生を目の当たりにし教員が困ったという相談も少なくない。教員も必見の内容なのである。

ここで要望がある。1つは——膨大な翻訳であったことが窺い知れるが——できることなら時々によって必要箇所が違ってくるため、レイアウトや改頁等の工夫でさらに見やすくできないかと、贅沢な思いが浮かんた。2つは、全翻訳であることに意味はあるが、できれば付録として私たちが活用できる日本の法律等が掲載されているとより活用しやすく、この問題が他国のことと思われるのではないのか。

注目はさらに続く。本書の対象はヘルスケアスタッフとしつつ、看護師を意識している。その理由に患者の身近な存在であることや直接的ケアの頻繁さ等をあげながら、控えめだが第7章でジェンダーパフォーマンスを強調している。私も『看護職が体験する患者からの暴力』（日本看護協会出版会）を執筆している。ジェンダーについては編集過程で多くの削除を余儀なくされたが、本書はこの点を恐れず、ぶれていない。女性の職業の代表であった看護職に与えられた地位や役割は、女性の比率の高い職業の社会的地位の低さと性役割意識の高い男性優位社会の中で人間性を顧みられることの少ないお世話をする人とされていることを根底に、看護職への暴力と攻撃は隠蔽され増加するだけであることを明文化している。看護職に勇気を与える内容が本書の28頁で凝縮されていた。